

豊かな大地の水源

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

「アフリカの大地は乾燥しているので、水を求めて動物たちは苦勞をしているに違いない」と思っている日本人が少なくありません。

ところが、東アフリカには数々の湧き水や泉、川や滝などがあり、野生動物はちゃんと水のありかを知っているのです。

アフリカ大陸最高峰のキリマンジャロは、標高が 5,895 メートル。山頂に降り積もった雨が凍り、白く輝く様は荘厳です。

このキリマンジャロの雪解け水が、数 100 キロメートル北東にあるアンボセリに流れ、一面を緑に変える湿地帯となるのは、まさに恵みの水だといえます。

アンボセリ国立公園は 392 平方キロメー



写真1 美しいムジマ・スプリングス

トル。その中にオロケニヤ・スワンプと、エンコンゴ・ナロック・スワンプという 2 つの大きな湿地があり、一年中水が枯れることはありません。

水辺にはレンカク(アフリカン・ジャカナ)、エジプトガン(イジプシャン・ギース)、聖イビス島(セイクレット・アイビス)、アオサギ(グレイヘロン)、アマサギ(キヤトル・イグレット)、シュモクドリ(ハマーコップ)、クラハシコウ(サドル・ビルド・ストーク)などの水鳥たちが、姿を見せてくれます。

さらに水の中には、巨体を沈めたカバや、水浴びに来たアフリカスイギュウまでが、賑やかに水を飲んだり、寝ころがったり…。

もちろん直接水の中に入ることはしませんが、ライオンだって、キリンだって、サイだって、チーターだって、インパラだって水を飲みにやってきます。

このように、すべてのいきものにとって欠かすことができない生命の水が、キリマンジャロの山頂から雪解け水となって、大地を潤しているのです。

ところで、このアンボセリから東へ 100 キロメートルほど東へ向かったツァボ・ウエスト国立公園には、ムジマ・スプリングスと

いう、透明度の高い湧き水の泉があります。

カバとワニも数多く生息するこの泉の水は、この地から50キロメートルほど離れたチュル・ヒルズという丘に降った雨が、地下水となって流れてきたもので、キリマンジャロの雪解け水ではありません。

ムジマ・スプリングスの周辺は、遊歩道として整備されていますので、ハイキング気分でもれ日の中を散歩することができます。

泉の中ほどにはガラス張りの小さな展望室があり、澄んだ水の中を泳ぐ魚たちの姿を見ることもできます。

余談ですが、魚の多くはセラピアと呼ばれている淡水魚です。和名を「イズミダイ」といって、近年日本の外食産業や、学校給食でよく使われている食材です。ややアブラののった白身で、フライやムニエルなどに調理して食べられています。

ムジマ・スプリングスのカバは、とてもんびり暮らしているようですが、意外な一面も持ち合わせています。



写真2 水中展望室からの眺め

かつてこの泉で、カバの水の中での様子を撮影しようと、水に潜って水中カメラをまわしたイギリス人カメラマンがいました。

ところが縄張りを荒らされたと思い、怒ったカバが、そのカメラマンに襲いかかり、片腕を食いちぎるという、大事件がありました。

カバは草食動物ですが、敵と闘う時の最大の武器は、鋭い牙なのです。

ムジマ・スプリングスの近くには、広大なサバンナ(大草原)を眺めることができる、絶好のロケーションに建つ宿泊施設「キラグニ・ロッジ」があります。

▶ 平岩道夫&雅代父娘写真展「ケニアとタンザニアの野生動物たち」開催
(出品点数は総合計1,350枚)

4月26日(土)から5月6日(火)までの連日、東京・市ヶ谷のフォトスペース光陽(JR市ヶ谷駅下車徒歩2分、江上料理学院前)で、平岩父娘写真展が開催されます。今春1~3月撮影分の最新大型カラーパネルを含めた150点を展示。26日(土)の正午からは、駐日ケニア、タン

ザニア両国大使を迎えてオープンパーティーを開催。今春の「平岩アフリカツアー」参加者45名が撮影した“私のアフリカ傑作ミニ写真展”(1,200点)も同時併催される。

なお、4月27日(日)と5月5日(祝)の両日午後3時30分からスライド上映会も実施される。入場無料。毎日午前10時から午後6時30分まで。(但し最終日は午後5時で終了)。会場道順の問合せは電話03-3316-6234、FAX03-3312-7558へ。